

花傳書 七

特別
千12
3606
7



特
412
3606
7



よろしき離の志あく大り〜い巻よ〜きき志るを
と〜る乃多き

一まの離といひをある物乃うきてたなるゆいり
し〜くよちやきぬをいたるやめ志つりなるせ
なる志たぬ離の位を分別して離乃又白り
似合ころや〜よちやま〜し熱別離乃うちを
りやすよめ字なる字依りん〜又〜の
呂かん成ずふて〜は相應するや〜よちや
ま〜し文字うつり程よく字よさ〜ぬ
や〜よちや〜し又離よかんあるや〜た
打き〜るぬ橋よ〜あむ〜ま成〜ん
とそのあよよ似〜地を〜ぬ也〜

横山家藏

よ乃おをのりよもういませ嘯くそよとうてい
よりー感あゆ物也小鼓なうい抄つより打
うちるりーそよ乃おい地をききさそよてやり
さて抄つよりよをうち抄ーらんいよよかん
あり又きさそよりうつよ哉うこせと思つ
お乃地をおつうちよさてよをきさそより打
ら合てと地とよ水きをきうとてうてうん
あゆ物なり謡の曲さうい呂のうーい哉うその
しーいきさみせうそのふし乃おのていきさ見
より打てうー呂乃ふしよりうち出くいおの
よりうちてうー是一大るのあうひ也才一
とやと申い大夫をふときり大夫い一府の大お

花を所りさそよ志んあまいけはまーき取
あそかよりけはへき取よてをうけらう録
あるともきよあきよ哉多うよあへて舞あ
謡のうーりきしーをなあく引あう節をうー
あくけめ那曲をうてひまへおきるあをうま
す急さううーてすくもやり多く扱こよわり
まうよあるまふ也嘯よりをめんをやり由嘯
あくいねー大夫のちうききのうふもく
よきやうみんやーよりあまを肝君なわ
上よよりとりか大夫乃んうき似合をい
藝い下よとらねー熱別役者い大小大鼓笛
地うーひねえよ至るまて花の下よたえーわ

下草い花の志んのおきソひ伊勢ある横みと
つわいわくハ一そい持の要也ソつお志んの
振舞い面白ん下草のとつわいあひあ一きれい
つふと一ておき花とは尸か一か横のる
警古大才あてあう一よあく一不測此た
あま一あうけゆこんま一くおまたとひ
下まう一て名人なわの歌い大夫城うやまひ
大夫よけく一熱別世るふ人の尸の上まと
名人とはおかきなるちうひうて人を人言ふ
たあ一やうま尸の上まと尸いも藝面白きを
上まと尸也名人と尸い法藝くくくひうれ
けいさうあひひすう尸と一てふのきり

徳人かんま一結橋なる取あを名人とは
尸也左様よ万人よかめくまんすわくお警古
こんきんよてなるへきやさあまうて名人と
尸事一お来たるまれ也是い名人のうてさ先
歌の口傳と尸い席破急陰陽此位をうくたん
きん一て歌いけ肝勇なわ太和かりい陰陽此
位を女たろ世男たろ世と尸也名うかこれ
とも回す也能一番乃る次弟い席よて破と
あふもあわ又席の席とあるもあ或い破急と
まじりもあわ是い隠れあうあんをうくひき
まへてお別をさいきこゆるものなり
一歌のたあきとつわいと志こあきと志つらある

とら大あはらりまてらうろきとPいのりて
よきはよするくとゆくはかろきとPる石
車よのりて拍子よきとPるをたまきとP
よ志のりあはるとらのりてよき位よゆくさき
くはあとももさうさゆくと志んよ
ゆあをあらきとPやまを志のりなるとP
志くるきとP位よひ乃位へさうわらるを
志くるきとPなわこまねかきなうかりゆ也
一 目き終りいこれ事一笛真乃呂をあく志んの
祿とわをいしよまほは笛かんよあーもとま
小つとまきとPる打拍一八數い五のあま
人乃あまくの中乃拍と一の二の打る口傳

なり五返のわきつと也小鼓乃鼓を一の二の
うけて笛吹へし何とをまきま小鼓たらよく打
おらるるあわき時笛初位をまて二返より吹
へ小つと打拍一初いきとPるうちつて
二番目の拍のりうち拍一三番目の拍のり
打おし四番目のゆわのりちをうけてきとP
おとまきほり一の六下の内ふるまより
うらなをいあこうちとゆわうちあけのり
二の打拍とある也おきほりてまくはうち
あまき時かいられ笛ありうんのまとりは吹
おと天竺和合樂地等より自在樂と観念乃に
もらあわ小鼓たきほりこのしとく打くあひい

第一番も同お也番調子の位は習ひに傳あり
第二番大拍太鼓打うるより揚かゆへあうへ依
地よつけてうーこまり脇太鼓舞臺乃ききへ
出る時番うんのゆりうけ呂よあーんあゆり
席破点よ小鼓よまへし扱舞臺さき足さゆり
をき諱而礼ををー袖の露をとりをきありり
手時小鼓打あきうーらの教七拍までありー
あく依也但九つうの流もあゆりー以人うち
んち不審すへー以番も時ゆりうけて吹ま
ゆり乃数九所九曜の星と表を小鼓のかー
七拍七うの叩ー成うこと依ふ点乃ゆり
うけてわさかへとあく依こつてかーう

つけてまあり依番小鼓脇太鼓三人のうー
一乃の位也さてわき大夫かこ成ゆいやりて
名乗さて名乗すきつてわきうちあり二つ
うかわよなをり次才をうーあ座うてる行を
うーあ八幡山うも美よきりくとうー打の
あへゆくやまき所うはさわさもはねへ梅
まき大夫二乃服ふむうつてせまふをうひて
さてわき座ふをり
一まき能打やう此うり次才の時い本の次才也
小拍こより打うー不拍乃次才也上略中略
下略本乃うー成うりなわ

あり大あり一不位此一世いよ小鼓いかにし
うちんててい叶い口傳但鈴乃位よあり
のーありいひき能よはありまへしひ一あり
打あき考れいうちあけるひき能い打とめて
本のうしう成うつし道もたらしありいうち
とめいかにのしとてあへ

一瓦上のうひをひくをたわと云ありて下無調
よありしつろああり

一をとうう志がの見ちひあれ笛ふきやうあり
中のう書吹返ま大更舞臺へ舞うておるあり
あしひ鼓う一舞乃位も同さなり

一さー勢うより強よあ家取中修也まはありひの

うしう打也うしひ一白上修を打也うまよあり
うしひとむる和と乃きさこまてうしう鼓る
なり熱してひき能よはつを並ぬ物也何の
あもありひしあ物なり

一思ひをのあるうりなりとりよ吹揚あり呂
なわ本うけのちりをかうふよと云よ初中乃
呂をかへしとくなり

一あいさ砂とりよ笛吹んのしろああり口傳
一ありまて命存うへて笛うんより吹ありあり
一それも久しき名取うかと云あ笛中よりあ

よ六下乃よあり説云よ口傳
一言葉のうらふ松もろとむふこれとまてと

ワル子呂のソウニあり口傳

一四海波志州リマセと云ふ子第一切吹合々
一松を目出度うわけ進と云ふ笛を喜よりひ
きりけて吹口傳大つてううめきくくと祝
云子ういへし

一すめ民とてゆたかなると云ふかんの言
一松のいづれは物語人と言ふ大はく見
うーうといひき也ゆり此うちまては
なわゆめとてむる箱中のうーう笛ありあけ
言とちを吹中乃言喜まてふく

一南枝花を吹中乃言喜まてふく
乃子あり口傳

一何一々乃内うーう二の也は一のの
きさともてをまうううそのは口傳

一曲舞りかへは取のうーう上略也くあひ乃
かーういけ打へし隠れうち祝云よすきて
ううへ上とのあまていりうあ

一異國も本朝も新民も進成賞歌と云ふ
笛吹やうつとも打きかてあきたんうんを
事一本乃うちやうなわ

一直も吹け乃あきゆめと云ふめを笛か
うり吹まあり

一中も名い言乃とつふ箱もて中うん六下

祝云よ少くすわ

一 禰儀子なる取三の打返も也禰儀乃内太史と
地との打換ありまうちいめ侍め侍ちハけら
ん也ろんき過てかく屋へ入つふもみきく
とう河なわ

一 海士の小舟よりうちのりてとつふ取は太史と
呂よれたと一赤よあり笛言書のひーき一吹
うけ祝云打やう口傳あり

一 沖のうへへつてよなりやと云取は吹換口傳
一 狂云太史あひの物語をつひ大伝屋狂言一
と繁哉りり一狂ふ時笛少きやうまられ
少く事一いあひ何知とすきころとあく屋へ

志しせんうため又狂云太史いご一めの禰儀れ
す急太史かく屋へ入時吹笛乃調子をうけ物
語をすり也されとも狂云乃こと繁り調子必
うりそめよ女ものなきいわきよ調子を
せんうためよあいの時分よ喜とわを吹なわ
一 び笛あひよかをあけてとつふよ喜ひ一き
かくはなあり

一 ちやすものはよつきよきりとりよあつて
一 吹やうあり口傳屋うてひーくつうおと
祝云よ少くへしはひーきの位を太鼓お侍也
太鼓打いりけて打へ一笛もあひあり口傳
系かりよは藪うちらぬ也太史乃ととすきを

見しつぎぢひんやうりーちやまへーふ乃
つゝ乃拍子をうろつてと云ふめく鼓地りー
らふ習ひあり笛のうき横ありすく志め路ん
とソふ所まで笛呂のくたきを吹奏いれ舞れ
かり意れ意なる笛二腔目れたろーよあひ
ありはまの体もあひひの〜ねてもあひは
たろー一笛書よ吹へ〜ひりぎの能よかきりて
祝言のよと定め是をあく也は侍肝要也千秋
樂い民をあて言書のひりぎをひて一ひ紙
乃し急それの〜むまてのひく〜と吹りて
吹折さめよひりぎありはひりぎの〜ちもち
かんようー一番乃おさめあまひひりぎまて

うまのおさめめのみ坂あく体也はたけ羽なり
りぎ能乃難やうたり〜めは一日乃能のち
まわりを〜ひりぎ能肝心なりわき能出来らへ
そ日の能いさるまでおま物也又脇のふあて
きよらん〜ひりぎの能おさめまてきぢひぬけ
らてあ〜き物なり返こわき能才一次才より
つふも祝言をふら〜あき〜とあへ〜け
ぢり裏傷へゆり〜やう〜ひり〜
〜い裏傷よなわたうわら物也つよ色く
ぢり祝言をあくませきをひり〜囃物なり
熱別祝言とりよ〜と〜ゆりなる事〜あき
色の也春乃〜めの時よろしひと一孔ひる

うし〜あまわりも面白きよあ〜う〜ぬ物也
歌物もろ〜せぬまゝ〜とちやまを祝云
と尸たわ淫も物〜ろ〜せ〜ろ〜あ〜なと
う〜つ〜す〜ろ〜志よ品を少くませむ〜ふ
祝云哉〜う〜物たわ只面白きと尸ハ幽玄
きんがみあ〜くあはもの也返〜もき〜ふよ
こほやりなる〜う〜いあ〜淫乃うち地〜と祭
〜わと〜ふとあひ〜う〜あ〜わき乃終り〜
つ〜を下よ置るまま進なる〜し〜うよも〜
志うきんよきあひぬきる〜ぬ〜よんや〜
〜ひ〜け〜かん〜う〜なわ

一 志乃弓八幡大〜同おのちや也ゆ〜や〜

が志乃うふも熱別う〜う〜の〜き能位ハ定と
たりと尸せ成かあり志乃〜此替り面よあり
又い笑よ〜り歌此位少替る〜し大夫すち乃
面が成る〜あり歌狂急あは〜鬼むきのお
すちの面や〜りやき面ハ〜

一 老松お生川白樂天志三番ハ〜ろ〜いか〜れ
大〜同おなり鬼分老松志流〜ふも熱別の
〜き能の〜ちよ老松やと志別りなる〜や〜い
あ〜く〜古本よ花の咲〜ろ〜と〜る〜や〜
〜天女おる事〜ありお梅屋と号志紅梅屋
舞あ〜い志乃うみ三流乃破の舞ありよす〜
あ〜く〜す〜く〜とちやま〜何も其の席なり

とや一太夫あしぬ位習ひま本乃名いふつと
とつり志乃席とは平調西一哉尸也

一 異服とや一乃位の子弓八幡老松のあひひこ也
志乃くもあき意こあもあく中乃位なわ

一 志候伏見老松那波右何をソろいかアれとも
同お乃てる一なり何も祝云也那波乃掛い系
かりあおこち唐かありらあたをわてしあ
物とたまやおとこ三ヶ月あて成きそおは舞い
破れ舞也今まわりいあふとよて志乃き
だまうこまてわくせうをうけかくふ舞なわ
是上かり下かり乃らり也天女乃舞いた乃
破なりおあまの舞いたまきうなり

一 見もまを浦崎あしひけ大座一ろ九世戸吉燈
寢覚乃床久い替まとも大才似うら舞也何を
祝云見き能なわわさ終のとも一横うめよ
事一志乃一んし道ももい持なり

一 八幡通盛もりのたくぬ一せいさ一勢ノ子
こひ出一月乃お志不のとりふあより繋て
さやまゆ人子一勢ノの中の一せいともりわ
八幡よをちつけの板より引ちきつてと云兩
より同書の間太史乃舞ありつよも仕舞れ向
うはくこときやうふたまへことき乃夢
たきて破の波松風アわれと云取うりうも
もや一も志何むうをまへれ位ふ舞うへ

大夫乃舞あしひんはたへしかきりきり此内
二番なりううふもたたくさん子所ゆくきぢひ
ぬきんりぬやうよまやまへ

一 田村忠彦種政さひもわ清経家の替進者大形
同也但たむういにもちちうふ税云才一の
備後也書乃備後よりや一そわろ一税云一
まやまへ一このりつひまさ清経いぶ家
みくまへますゆへよゆうよる考よけとかく
まやまへ一種政い陰乃歌也夢中乃歌也種政
うまひ才一の歌なり熱別りき次才志ううふ
ん所一うゑる行つひのし一大夫の一せい
さ一うゑの一せい也海士のよひ一ゑといふ

雨よりうけて一せいよりい也後の一せいの
うきくとうろき一せい也打都一よあひ
あわねをおし時あれいとひ同はうひの
る初なわり家くとうちてひ一古程一乃
若乃合戦と云雨うよもあきくときがうて
打へ一序破点の歌なり位ぬけんまぬやうよ
いりけ肝要也申あきとや一なわ
一五ひの歌のうつひ乃備後のうちまてを分
きかう備後也よき此次才志流りなり大吏の
次才いかう一のぬ也いねまへし口傳あり
備後よ花よとてと云雨うううこぬ也何も
うううけたままへし

一松風の囀乃るりあそひのぢひき舞なり見さ
次第よておる時もあり名繁てい何るもあわ
大和かり系かり乃わうち也一抄のい志つり
なり一せいの松風よりあひあ一せいの後
當流の層々をうごめ大和かりのい
せいすき秋のまきとつらと次第候うごあなり
いけく一此秋風のうごめいおあなりあま
てもすまのうごめいお二位つておやう面白き
いつけりありよく徳乃吟くをりをす合何お
る様もたまもあしうももことりやなを
思ひこそいあけきとつらおあて大夫あく
仕舞あつていつておきるへうやう乃とつら

とや一横大車一也左横はあくらんい大夫乃
仕舞さやうの取もやま人をよき舞と尸なり
か横乃るりつ建乃舞もおあしよくいけ
うて大夫乃仕舞ぬりもあやうも舞もす
肝要なり拍きの位も大つてうらふあひ
あり笛志んのことのき也笛いさこまわこり
笛をいけさ係大夫いたよく徳も事一笛い拍
き乃喜とりを吹おさめてうりいよの事一城
吹今いさ係よりつておま笛を志しとつら
いゆゆい鼓い次第よあひ舞もてをあき
拍なり一拍子のうぬ舞なりうちむもあま
うぬ也舞りろ志乃舞なり初位より二位め

志州ふふ節は二後目は意の事ありゆゑ
能とりふる氣分松風燈の宮也破乃舞れまひ
とめは習ひありきよは舞とめてうちあき
大夫上より一て舞も氣はあひ終の位もよく
緊て面白けきつひのよと舞とめは一して
たまふるうき風情をうて松をさるくくと
まてらうらなきまよて足をとほす時大小打
あけよあひあけく乃しくの舞とめの
時つひれしく打あけくは仕舞ぬきんて
あひひはめつうく文をつけてまひる時の
考のうらうまてうちあきてうらうすりなわ
かやう乃素まきなることあきいよくこゑ

うけらひのいけうありゆくたまは氣をつけ
へ一節大小ともふ上よのたまはこまをまふ
か横れ仕舞いおぢくんとそ一代のうちり
三交よるへひおの舞い多玉の舞也美実の
舞はあひひひきあまあまは平乃思ひ人
たりしよらゆら子やきくまやまなり
一ゆや此舞あきく平の次才志つらふら初めい
おきけしふもあきようちさて打上りし
まらきと三の節とつひへ一宗盛出るたき
いこあきい如たよりちてより考乃あより
里人なまのつてらたきつこまは天と地との
ちうひなわ熱別のおきつこまき乃位ふら

真京のりまへし文乃うち子笛乃しるゑ外奉
きへし遊座北嚙曲玄の所よりき位也曲舞乃
わらり太和わらり打きす京わらり打切て
うまひしき也舞のかりも太和わらりつゝの
しをうけたのかく也京わらりしめを
しるゑて舞よゆ久え乃舞と尸也席破意乃
舞なるわらひひ短冊の位習ひわら太史意よ
いをよまると見えき時いしよまもくま
まもへし大夫短冊をうきうてより仕子の
身かま人をうてまもへし笛色心持同意也
大夫是乃ちしひ哉見てきくくと吹上り
わらりけたるとうへし笛も鼓も打上ね

うりらんい仕舞ぬけりて太史是をきくも也
祝言よりきくとたまもへし何も松風と
能いあしひおかき舞をわらく響古もへし
陰の中北陽乃舞なり
一燈の宮乃嚙の事しつふもくまん子嚙へ
あしきひ宮所と云ふをうまもきひく
と何おころやうよりまへし一舞の中乃
一せい也舞ハ席の席也わんかり也又句あは
能と是をし松風のしと二燈もあり是ハ
高針を同つけし京あまてまませいのり
あもけさく尋常よたまもへし松風と大き
ちうへし是色はの舞よん舞舞を破乃

つゝおすへ一節少きか一由部もましく
けつつけとひ笛より吹おすへしきうり次才
りうのたかくあまこあ家奉なりうく
けへしけい乃あやすき同くうんもんふ
こやまへし

一升筒此歌大ものるや一なる中入のまんり
しき習ひもあくる曲舞れうち志んは歌へ
幽玄の上と也後の一せい中の一せい也席破
急なる舞の席の舞なり席へ由家あは鼓大
ちるひあり一書乃うち乃肝に也なりひの
形見のあを一牙ふふきそとりのあなり席へ
かへはる乃るなり三位乃たやとりわげ心持

習ひあけまの序子あしうまねをすく口傳
るへし熱刺は能ひ習ひおかき歌なりあ上
功をも傳る人乃あしひんるまし
うひ一番のうちは陰陽をわうり歌也女
みしと男なりきりと言うり陽此位なりあ
幽玄れんや一あまのゆうよまやまへし口傳
おち一きり志んよまやまへし

一定家次才志つう也おまろき夕部なりきり
しあ和文白よりあひてらやとる一節もつう
るへしひらり上きさも乃内より謡かまへ
曲舞志つう也後の一せいはあしひありこれ
一せい志乃一せいと云へる一せい也う

をもうふらきさきと拍子哉よせてうらひつこ
さずる也ゆめりしとさうさうふあひ一抄ノよ
あつらひゆらんせよ牙いあつらひと云取一せい
なわわくはくゆ一み原あきさよあつらひ那乃
所法よて打上あつらひ大るありきよは打上ぬ
秘事一也舞ハ席なりとのこもくつらひまよ
つらや定家つらつらとさるるより陽の位なり
陰陽の元合れがき歌也い持分別して歌へ
時より破乃舞も歌へつらよきもたまは
かぬへをよく目付所口傳なり
一ゆふりか席乃らや一也一抄ノハ中乃一抄也
席乃あつらひ席の舞のかりよたまは也つらふも

けとかく為常よたまはへし

一十壽乃たまは陰乃中の陽乃舞也但舞乃うちけ
位のも也曲舞きりのたまは一やうあきくと
きつと一とらたまは白拍子れまひまよ
あまりまよ為書よはりやさぬ也に口同あ
一二志列り是も白拍子の舞なりあまりまよまよ
けたくいたたまはさぬ能也曲舞の内は歌乃能の
うちまよ志流くふん席乃舞呂のかりなり
さつとと志あやりなるるや一也
一東山院是一本の精なり何とあくすつらつと
たまはへ一是もけとかく為常よたまはまよは
あつらひ乃花のせいあまは朽木のせいあま

よはちりひるあまゆいさやさぬ能也あ
拍子乃舞より志んよ舞へ一席いつの
し舞過て今去しよい薄儀よあま余の
座よいつつものよききりふも花やふ
まやふ

一揚貴妃乃舞次才陽也さくくとかろき次才
あり天よあふい福うくいとりふ雨急暮の
いもちされとも世中のとりふより哀傷なり
つふも志んよ志んよ舞へ一曲舞あきとも
揚考妃一番よきてわくせまひのくくぬ也
あつれ小蝶乃まひと云よりつろ急あり本の
つろ急也真乃ものき也松風をとの天し女の

ものきよはさうふちうあしつよも
くく志んよ舞へ一玉乃かんきとり
さ士よあふひけ進いと云雨よき乃仕舞
習ひあり形見乃らんゆを見定めつやとよ
是い世中あとうひおまに持くふ見
さこめひして舞おと奉あき也是習ひ也
熱別びよきいあひに付おかきよき也
口傳さへ揚考妃よりまよ物を伝ふとき薄而
あつれを地よつけけ給ふへし又返り
時七回よりなる舞の席乃舞ありかんのあり
まの舞ありこれ終い大更せいころあとき
なりいあくるまことよりあころ大更なり

かしく斟酌すへそ子細いたとひ上をくわ
とつふは年一よりわぬきいすすこ見くゆき
たわはまらつとこい年一き也さゆよもそと
よりぬきい揚貴妃の終いなわくつき物なわ
返こび終真の終也よくはたへし

一宋女の歌のるり燈の光千妻乃君なるへし
聖の宮いみやま取也歌も言よまじり千妻を
白拍子也さゆよゆつて歌もさうなるたや也
うひめい太二妻此君なわと尸い宋女の宮女
なわ宮女もそく人共位さくわくう宮女なわ
花ふよりて歌もそはたるへし席の舞あり是
ありろし和安乃心を舞此内よりわ持へし口傳

一鞍馬天狗乃歌此事善界と大形似くうたやし
たわちあううさいたう此鬼也太市房全形を
なへこちをうへるまこるやうき風情なわ
歌もそはたるへしまやきくうぬい善界より
ちやくはち美りあくせうをかく事あり
そ時とやれ位ちうへし

一せりい歌乃るりまきたうの歌也つちもゆたう
る落付てたまんくう終なわそはたるへし
一橋銅松乃山鏡聖守大形同し事也さうわあ
何も多の替まとも橋銅位つと終なわ歌も
もた大事也あのをせう入くようひのうち
きわくともこくあありはいたくき大

ちりあまわり子牙り家よ了了きくふいと一より
くろせし似合ま又ゆるくくと志つるよまを色い
務を行ふきをひあ一分別肝要なり後の鬼
常乃鬼よあしひあとの鬼なりるくき口付
松の山境は鬼あとの鬼也同あ

一 昭君いたくぬすくあ一あ乃一かろい志つる也
さし一急な強の内裏傷也同く小うくひ乃
す急の強も同あなりさし一急曲舞同あ入ん
裏傷の中乃あい急も也おい急なり當流より
おたる太鼓あり昭君の出も一せい也あ乱序
よてあるもあり急の急なり大事乃能歌也
鬼乃たやよりや一乃歌まれなるべし

一 紅紫狩の歌乃る一太史の次才志つる也わさり
一 歌乃たや一せい也曲舞幽玄の急幕也舞の
くちさくの歌也女此舞とんせち中神鬼神
さきい海ことの女よあれちやまのたあへし
きくくんとすく一と志こは歌なりきりりまき
たう才一乃鬼也所よくたくさんよ歌也

一 春日新神の歌乃る鬼の序さいたうの鬼なりわ
まく屋よりあるかとの唱五拍の歌はるや
たのちわ新神乃るや一あまいおろろろあは
歌るあしひつふもたたくさんよ大ま此きあひ
ぬけるもぬ橋よい付もやまへし

一 屋業男舞也昔の男舞より志つるふん但こあ

有りいりろきり才一の終也きりわい祝云也
曲舞のおも地うへひあり千代乃了志うふ乃
たしあちありゆく位を分別してうふへし
舞乃位い次才乃初物ありれよいをゆへへし
何一曲舞同あきり祝云あきいりうおもたたく
さんよあきやうふきかうてたまをへし
一七路後乃たむしの事舞い何おれ舞なわ志よ
舞へし西國の兵をせさんまきい程多く清勢
二十万強よなわ強ひゆくと云あより祝云也
とや一のん持かへてうきくとたまをへへし
初いきり才一の終也ん厚もいねるへへし
一程くの舞のりおんさうりい也うふ乃うち

ととなうこともあくるまひ破乃舞也それ
あし真孝乃三あへしよく大吏のあり城見
目けてたまをへし志乃みとまいたやん人も
まきあうへへ見たまの見換のり大吏酒を
くまてのたまをへし二足三足志さうりてさう
志乃あし城あむ時乱又大吏候して是を初時
さうゆもあや又作り物あくて乱まらるも
ありま時乃みやうい大夫乱まらんとてま
こ一帯城まらる物也是見取也乱まらうやさ乃
位い大夫隠る位をむひり分別まへし
一小楹うきくと志つるよ舞へし幽玄也席の舞
杜若よりいちと志つるよゆりくと何よく

歌を業平の舞あまといつよもげさうくひき
みんやとへし愛子大子子の習ひあり祿舞の
うらもちあるへ

一三升方此歌の奉一せいのりき一せいの
たくさんよ打へ鐘の位きしくと歌へ
熱別也き程女なりをきくと流るくつや
すへしさう乃んや也

一百万馬きの次才陽なり但志ろり也念佛の内
太鼓うらうつげぬ也つろふありさう曲舞
きりくともやまへい座き程女あまとい
作りたくさんよ歌へ及のりきりのりて
歌へうけそのうち紫てたくさんよ歌へし

子よあやぬさきい志やらきわと歌へし子よ
あふてより大まうらめきん持なりきわい
祝言也さうくと歌へしさう乃んやなわ
一あひ様次来うきくと歌へあの栄き乃
戸をひくひて肉へい建くんとつふ所程玄の
あひくひあり祿をくく合様花咲みとうと
ん建とさうくとあひくひ様花さきよと
うらあ習ひなり舞の席あり笛も習ひあり
古本よ花れさきくると吹へし太鼓をて
大小乃いもち肝要なり太鼓あはらうらあき
やりなり太鼓をねまといさひきなり大小の
い持を以さひくひは秋乃種れ喜ひくき

うと心と云ふ事とて太鼓笛をいひあり

一遊乃柳小楹と同いふもち乃舞の位なり同お
西乃様よ似たりちと志つるをいひ葉平此
舞あまのいふ考よ歌い序乃うち非舞乃こゝろ
あり幽玄才一の終也遊乃柳い栲木此精をいひ
さうふちやまへし西乃様い花乃せいあまの
遊乃柳より志んよちやまへし

一安宅の歌次才ふきくと打いしうわあう
いいうまひなりる乃あまのさうくと歌い
所とめれ内弁舞り完後の所とめあれいひよ
もれよくけあけよ歌いし勅進帳のうちよく
口傳とつてい舞よ書いしうわい一曲舞の

うち述懐のい持あまのいふあやうふうきこら
心よあれ舞い清おの舞乃やうあまの清おの
舞よあれ舞い弁舞関守よ心をつけ申部をせり
して舞いぬりりころ舞いあまは是なる山
水の落て岩をよひくくといひあまのりなをい持
志やいきとつて舞の名い大聖舞といひわ
ひえ乃山崩後の舞のよなり弁舞山門うたち
あまは舞をつひふもてあまふと也まひ乃内
破急の位也子あありきりちやう様さうくと
たやまへし舞いあまのりあまのりあまのり
かうとあまのりあまのりあまのりあまのり
一卒都婆小町乃舞乃事いりさ乃次才志つるよ

夫更の次并又位勲うふはし道終るもよ
何ころ能あはれあてんられうとたこまら
たくぬまゝあき終也大夫のたこらく事も
あく程までよてすらくと志こは能あま
つとめうちうま肝勇なり大夫のあし似合
ころ横子たまやとへし小町いゆあよやさき
女を道共年一よりぬまをちらぬまきとも
さんうつとあき程人よあしひん道の歌も
順よこゆの位びりけりよかきり順はく
さくく破よまやまへし口傳る之
一さう髪乃歌乃るす物狂とんり余の考の
物狂よあす延表才三乃内子よましま

そはき物悲冥なるもの物狂まへしあし
へしよよもる考よけこく花やうふ歌へし
一及魂香此歌のるる哀傷の中の哀傷也つふも
い持あられよもち物まうくうまいは歌へし
一をたもその歌のるあられなる歌也あをれと
いひい歌をもいひひかきて打へし
よんたう歌也老女の舞大事也習ひ物知
いつけおかきんや一也きりまの志んなり
一綿本乃歌男の具と是をりよ魚幕才一の能也
よきれ次才ちつよよ大夫乃次才さくく
うろき次才也うふ乃かろる目けくく
およわりろく引きて歌へし舞の事鈴本乃

舞と同お太二番ハ太鼓あき舞の中よて乃志
たわきりつふも舞此位より引こくてのりて
のろく花やうふさやまへし必舞過てまひよ
くこひもそころむ物也よくいけへきわ
ころこくハ終のきかひぬけりてそ終あてき
たる物也熱刺乃終こまふりきころはきりの位
の列也一番此る乃肝心なり元分綿木松中乃
きりぬうわんてい大夫まらまぬのふみくも
とわくきめくの舞遊乃盃のあこわらりよ
もたくさんハ舞へきり乃舞破るる也
一揚貴妃升尚夕顔志つさ同位也揚貴妃ハ
曲舞あまことも太二番の居曲舞の位なり子面

あり終乃挿子を太の二番よりわんとも位
同位也但揚貴妃ハこまきの次より一也
右二番よりわけこかく打へし
一藝此上舞いあげまは五位乃舞也一せいの位
一舞也まもあまて久い舞考るたまやすへし
くまきのうちつこあ思ひまはけやおしひ
志まこ云より地謡をやし由舞あく急よん様よ
淫舞まへし梅うちらのせかかれゆふよまて
淫舞つふも志つむる一大夫の入も志つめは
してつまぬ能なり初更の内山伏乃いのり
あまこい神子陰陽乃初更ハ替るへしつうおも
たうろろ一電つまもち舞へし席破志ある

形也。さきこれ内。ふもた。く。ん。よ。は。り。も。く。
た。ま。ま。へ。一。舞。の。き。あ。ひ。も。て。大。使。の。り。こ。ら。き。
な。わ。る。も。の。也。舞。あ。一。け。進。い。る。こ。ら。き。も。し。る。
き。り。意。よ。ん。な。り。り。ま。き。た。う。の。り。や。し。な。わ。

一 海士の舞乃。ち。ゆ。也。次。才。つ。よ。も。う。き。く。と。
と。や。ま。へ。一。大。夫。一。せ。い。う。ろ。き。也。こ。ま。進。く。を。海。
才。の。母。海。士。人。と。云。所。真。よ。い。た。て。と。也。玉。を。乃。
返。ろ。く。舞。へ。一。か。ん。大。鼓。あ。り。笛。の。あ。り。大。夫。
大。臣。よ。侍。種。わ。く。一。然。歎。る。時。舞。よ。う。海。へ。一。
大。使。ふ。り。多。く。の。仕。舞。あ。り。い。た。見。さ。う。め。て。
あ。海。へ。一。あ。ま。人。舞。ら。や。一。な。り。さ。う。乃。舞。な。わ。
ち。あ。う。一。鼓。を。い。く。き。こ。る。能。み。限。り。と。や。一。

ぬ。り。り。く。へ。終。乃。つ。き。あ。ひ。う。せ。つ。く。大。使。つ。く。
た。ま。か。し。一。も。く。い。た。舞。へ。一。切。の。能。お。立。面。
い。く。き。物。よ。り。舞。の。く。く。あ。り。も。く。口。傳。
警。告。と。へ。し。

一 三編の舞乃。事。陸。の。次。才。り。き。乃。名。舞。も。志。流。
く。ふ。ん。つ。よ。も。さ。ひ。一。き。風。流。也。中。入。と。り。り。け。
さ。ひ。て。舞。へ。一。り。り。さ。一。曲。舞。の。あ。い。結。舞。な。り。
位。也。曲。舞。い。舞。曲。舞。也。又。を。た。ま。き。り。一。り。り。哉。
つ。け。と。云。取。ま。て。腰。を。か。け。も。あ。り。曲。舞。流。依。乃。
あ。い。杜。若。よ。り。さ。う。よ。ん。こ。ま。進。く。神。樂。の。ま。り。め。
あ。海。と。云。大。鼓。の。打出。一。習。ひ。あ。り。舞。も。あ。り。
の。ぬ。み。も。あ。う。き。海。位。也。三。拍。子。と。り。り。事。

祓樂乃ありあり祓樂へり所所のる也太鼓乃
うらうらと大小鼓のうらうらをうけちたまや振と
うらうら是三拍子なり祓樂ハ三拍舞ハ一拍也
席の内中の位うらふも志つるも但す急ハちと
けめて打たるも時打おの席の位ハ志列めて
おろも事ハ習ひなる初位志列うらふハ二拍目
うらうらうらくとけめて祓樂うら舞子なりハ
一拍目ハ祓系乃位なり笛祓系ハ何くるもを
吹くてもなり舞急なりうらうらと和音うらうらとて
きわふ太鼓打あけてうらうらふもあきくと
まやとハ申断ありていさひハ色かきり也
きわのハ持肝要也亟くとつて急分ちなり

祓樂乃ありあり一番れりあめ也小鼓打おしハ
うらうらうらうらとて頭をうちうらうらとけとと打
うらうらうらうらもさきくとね横子三拍目明祓乃
所舞あまハいさう舞橋子歌ハ一扱次者くと子
所とくとけめて舞ハあまハハ必及くとと
ひまうらむ物也うらまぬやうみありともなり
いけけ肝勇也舞のかり當流ハ不るいみと舞
今春かりハ舞ハて舞ハ五るいをまてくと時
舞也まひハあまてうらハ破乃舞のハ也急也
おろハ伊勢乃所當流ハ太鼓うちあけうらま
うらうら太鼓かりハ太鼓打上つてこれけうら
うけうらうらハ是も急也此うらなり

一 耶那乃わくの事一々一め乃わりの序を吹
事一々一をもちとせたるをもぬき大夫よ
舞のこく人をさせん乃ちひ也も不習ひ
おかき席也位の数十二位一の位も名も
めはよ舞久いわくあうくもた換る人実い
片まり過たうわも物也もいりけあき舞は
所めわくたひき及次第よくらむものよて
左様よ舞くていきよくあうくもわは
わくいあういとわたりあもあつめゆり
あうせうそはつよよもや一位の位をこめ
席破意よ所めく人いよきかきんよ所まは物
あわくくらのたをわめて破意と舞なり節

昔のわくよわりうて三位目を二位より一
吹りあわ夏中の舞乃ん也子細あり太鼓太の
習ひ同也也盧生の夢中此舞をよむわたり
よ一夢の中の祝也よふもあきくと舞
へしゆめ覚てはさとわなひきよ所縁也
心持志んふくわくとくもあまへ
一角田川名一き舞也三升百菊い子ゆ人ふ
狂乱し國々を廻り人共子よ為あひて末い
同か交祝也也まら川い牙なや所一國は
めらり人共終るあますてむあくとなわ
くらぬを見幽冥よあうる也るゆ人
よして哀傷乃中の哀傷と名付物あれよ舞へし

心付れがき終なり一却乃中の一むたなり
一鉄輪中入りわおいうみれ終あまいそんた
相應る響へし中入りわいものすさましく
たろうろき終あまお應るまやも所よく
たくさんよ力をうへ響へいのりあ陰陽乃
初也小つてはとくよむうあきやうよあ
かともりんうけ響へ初也山伏の初也よ
ちふる初也乃末はをすてく陰をすへ
一通小町の舞乃る男の具と是を云初乃次乃
陰也意幕のた庫一なりきりなものとくう
うよもけよくあやのきと響へうきやう成
るや一なりゆあうんいち更またうきかへ

うふもくきこそきくともやまへし地
陰うりこりてまわれぬ能也返く地陰肝要也
一こけの響乃事男舞の響乃席也位中の位
なりこあうのけあひ大内上層あれいよよも
けこかくる考ふりやまへしきう乃あり也
きわい破のとまりなりあきくと響へ
幽玄のい持なり
一源氏供養の響の事多忌のまや也宗式部の
舞あまいつふもる考よ響へ一せいの中乃
一せいの曲舞乃出て高流いうちきききて
あま也とまわりのまきうも也曲舞の内
ちのの響也二流曲舞なり心持習ひれがき能

なわつよもくうきやうふ噺へしきり真の
きりなわなつていあくるるううう哉
こませ打へし小鼓まで也めび乃終何も同お
いふ多く秘曲もへくんとおはに持るへし
一浮舟玉葛大お似する終なわ源氏まで所らわ
う終終をさいきんめていあも為常子噺へし
初乃一勢をさうつよなはの一せいあたまき
一せい也浮舟い少狂乱のころあり玉うう
うち少さうよまへし是は海なるあひひ也
うきしくと心を陸よもちさうするまはびね
のちうけいおとあわ曲舞ころあひとあ頭う
きまぬううよりあへし

一新田娘乃噺の事一是をゆうなるへし舞神樂
なり五層の控て舞るあはかくう乃はあやう
三輪と同事一也舞よなわてうり破のまひの
い也舞よなわらうて笛子神樂子と云事一あり
きり花やうふたくきんよたまやまへし
一富士太鼓次牙陸也よすうや時乃う急立てと
いふああきくともやすへしかくの肉志流
うふのりて打魚かく席あり赤あききさこ
まて打あきもちころをちとんいたするたわ
席破意ありさう乃噺也初いきんが乃い持よ
似り中程い哀傷也はきりよあうて哀傷を
まてく花やうふたくきんよたまやすへし

とも大才似ころ歌也さうの歌也羯鼓を打時
大小走つむへし羯鼓の内ありま打す

一 菴業の志や乃る初い幽玄なるなるをのにおさ
さうりも也たま乃舞男舞也曲舞まひ曲舞也
うきくくと歌へし羯鼓の舞ありまけ言也

一 たんふうおいきき也は鬼也為里い破のとあ
一大會うつまゆうまゆくもやまへし

一 松中の歌乃るゆ綿木と同お曲舞きくくと
からき曲舞なりたまの次才りう舞い急の
舞なり同きわ舞乃位りわきわをう舞まらぬ
横ふいおくへしたくさんよ花やうふ打へし
一 羽衣の歌乃る天人乃舞なりつふもけこかく

尋考の歌へしきわ祝云なりつよも花やうふ
たくさんようへし

一 杜若の揚きあり中の揚き也曲舞い二位曲舞也
舞序の舞也きわきくくとたまやまへし

一 ありありの歌の事ちこ此脩羅なり歌やう
いねるへしつ子乃脩羅なり志つよつうおも
真なる脩羅なり平家の云をまへし久いつふも
けこかく尋考ふりやまへし

一 冥寺の捨姫をくまへし建も似ころ志や也たの
三番い老女乃舞何もちり乃るや也た何も
い持習ひれなき歌なりを分同さばうらまへ
猶大なる歌なりはおい名人さうたさ人い

もやーる華ーましくーわーひた槩のうちま
 あーいあーく斟酌まをー際之位いつりまも
 陰之位なり老女此舞をまいにしるもまつりふ
 こひてまよたまやまへし古木よ花此さうんり
 ししくまあともさつふもつてまこらまのあまき
 ちきさうーうあまを成さまの文字くさりなまの
 せもちちくゆくあまういませそ打へー同く
 小つてれま乃華ー是もあまなり花やりなり
 まなまうーぬ也つりあも似合くるまをうり
 へしあ分何も舞乃うち志流うみん関方此舞
 ち成志のりま百年ーいとつひて舞よりけ
 所肝いなり笛つてまうく口傳あはへしつるま

うて舞まうけわんとま笛つふも志がうーく
 即あへーいけまお應ま舞へし其乃志んれまや
 ありわあまたまへい風乃吹小朽本まをーうを
 かうーくるん持なりけまかうーつりをあへい
 朽本にままなりあまわり又かきんるてままく
 かうつりをうひうへい風まこくままらた乃
 関方のまやーのい持びたまなり急なまとも
 あまわり花やりまはうけぬなりをま持い関方
 うりあかあままむりーの名人もこまらなま
 終まらるるすまーうけままーいあまきあましく
 されまけり

以上九十七ヶ条舞乃奥書い卷まあまき

終すなれば傳出の數々家を継子とわ
かす子の事ハハハハ及此二高目の
子とりあとも見すりりり中々あ
まき事也か積の事志わてお
くハ秘也とりふる事あつてへねを
あつてちるハ秘也

